



2017年4月19日

ペンス副大統領の訪日に際しての声明

富士山会合（日米知的交流・共同研究プログラム）運営委員会

富士山会合（日米知的交流・共同研究プログラム）は、第48代アメリカ合衆国副大統領、マイケル・ペンス閣下のこの度の来日を心より歓迎するとともに、在日米国大使館のご支援により、多くのメンバー企業の経営者と意見交換・交流の機会を持って頂いたことに深い感謝の意を表します。

ペンス副大統領はこれまでインディアナ州知事や連邦下院議員として長年、日米交流の重要性に理解を示され、とりわけ貿易・投資の促進などに尽力してこられました。基本的な価値を共有する日米両国の交流が着実に進展することはアジア太平洋地域の発展の礎であります。それに多大な貢献のあったペンス副大統領が富士山会合の「グローバル・リーダーシップ賞 (Mt. Fuji Dialogue Global Leadership Award)」の初代受賞者となられたことは、私どもの大いに誇りとするところです。広範囲にわたる日米交流のために、引き続き指導力を発揮されていくことを願っております。

富士山会合は2014年、同盟関係にある日米両国を取り巻く環境が大きく変化する中、知的交流をさらに深化させ、両国が相互理解を基に安定した関係を維持し、世界の平和と成長の中心であり続けるための一助となることを目指して発足しました。富士山会合のメンバー企業は、トランプ政権の下、日米両国が良好かつ率直な対話をさらに深めることを強く望んでおり、ビジネス面では、日米両国にとって互いに利益となる関係 (win-win relationship) の構築に努めて参る所存です。

富士山会合はペンス副大統領の来日をいつでも歓迎いたします。毎年秋に開催する年次大会を含め、できるだけ多くの対話、交流の機会が得られることを望んでおります。富士山会合の側からもメンバー企業の経営者からなる訪米団を送り、ペンス副大統領をはじめ様々な分野の指導的な方々にお目にかかる機会を得たいと考えております。メンバー企業はそれぞれの事業を通じてアメリカ経済に大きな貢献をしてきたと自負しております。これからも富士山会合は日米両国を繋ぐ架け橋の一つとなるべく活動して参る所存ですので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

以上